



第11号
2016.1.25

発行
長野県松本美須々ヶ丘高等学校同窓会
〒390-8602
長野県松本市美須々 2-1
長野県松本美須々ヶ丘高等学校内
TEL・FAX (0263) 33-2560 (事務局専用)
ホームページ
http://www.misuzu-dosokai.jp/
メールアドレス
jimu@misuzu-dosokai.jp

印刷 SALAT (株) サラト

私たちの同窓生
会員数 34,240人
在校生 965人 (男439、女526)
平成27年4月現在

前身学校
長野県市立松本女子職業学校
長野県松本高等家政女学校
長野県松本市立高等女学校
長野県松本市立中学校
長野県松本市立女子商業学校
長野県松本市立高等学校



同窓会会長 中村 一郎 (昭和37卒)

会員の現役時代の活躍ぶりに学び 今後の同窓会活動に繋げよう

同窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素は同窓会発展のために格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、同窓会のこの一年を振り返ってみますと、年間最重要且つ最大行事の定期総会におきましては、昨年度に引き続き多くの同窓会員の皆様のご参加を頂き、感謝申し上げます。次年度以降もこのような総会が発展的に継続実施されますことを切に望んでおります。

また、恒例となりました双蝶祭での豚汁サービスは、例年以上に盛り上がりました。

ところで、前年度よりもひと月ほど遅く、昨年十一月二十七日に開催の美須々ヶ丘セミナーは、第一部は松本市教育委員の齊藤金司先生に「教科書から時代を考える」をテーマにご講演を頂きました。「筑摩書房の国語教科書」「教科書の戦後」「大江健三郎の場合」「シーシュポスの神話」の重厚なテーマを次々と解説され、格調高い内容を分かりやすく教えて頂きました。



校長 寺沢 宏 芳

選挙年齢の引き下げと大人

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。また、平素より母校発展のため、多大なご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

本年度も三学期を迎えています。例年同様、生徒は落ち着いて、学習をはじめとしてクラブ・生徒会活動に取り組む、大きな成果を上げています。とりわけ運動部では大半が県大会に駒を進めるとともに、弓道が北信越総体、なぎな

たが全国総体に出場し、意気軒昂なところを示してくれました。また、本年度は文化部の躍進も見られ、放送部・演劇部・合唱部が全国規模での大会に出場し大いに気を吐きました。学習についても、本年度は約半数の生徒がセンター試験を受験し、現在は二次試験を目指し追い込みに余念がないところでです。

さて、皆様ご存知のとおり、六月の国会で公職選挙法の一部が改正され、選挙

第二部は二十年前に制定された美須々ヶ丘高校憲法につき、その当時の放送部制作ビデオを編集した「自由の約束二〇一五」を視聴し、続いてパネルディスカッションへと進みます。ここでは齊藤金司先生、同窓生の祖父江信一先生(昭五十九卒)を始め、同窓生および準同窓生(在校生)をパネラーに、小林磨史同窓会副会長の進行で憲法制定当時を振り返りながら熱心な紹介と意見交換が行われました。二部構成の中身の濃いセミナーとなりました。

一方、昨年一月二十二日より「同窓会のホームページ」がリニューアルオープンしました。念願の懸案がようやくクリアされた思いでありました。十一月三十日現在で千六百名を上回るご訪問を頂きました。今後皆様が見られる内容の充実に向けて取り組んで参りたいと思っております。因みに同窓会活動の更なる活性化

化に向けて、不足しておりますスタッフの充実もテーマの一つであり、募集に関する記事を最近掲載いたしました。同窓会員の皆様には積極的にホームページをご覧頂き、忌憚のないご意見を頂きながら反映していきたいと考えております。

在校生の部活動につきましては、今年度は二つの大きな周年記念を迎えました。その一つは野球部が創部七十周年を迎えたことでもあります。六月二十七日には野球部OB会の総会が行われ、引き続き、創部七十周年記念式典・祝賀会が盛大に開催されました。野球部OBの皆様は創部以来の活動状況が詳細に報告され、改めて感心させられました。今後の大きな活躍を期待したいと思います。なお、これに関する詳細は当誌および同窓会ホームページのOB会コーナーでも紹介されておりますので、是非ご覧

の日本の若者の低い投票率を考えると、どの程度の高校生が投票所に足を運ぶのか心配です。もちろん若者が選挙を敬遠する原因には、政治の側にも若者を惹きつけるような魅力ある施策を打ち出せない責任があります。若者の側にも「大人」としての自覚に欠ける面があることは否めません。今回の選挙法改正が意味するところは、一八歳を自立した「大人」として扱い、それに相応しい責任を背負ってほしいという要請です。少子高齢化の進行で、有権者に占める高齢者の割合が増大し、若者の意見が政治に反映されにくくなっています。しかし、年金問題のように世代間の利害が対立するような問題も多く、社会は若者の意思なきは判断を必要としていま

す。今回の選挙年齢の引き下げは、若者が将来の国づくりの主体であるという国家からのメッセージでもあります。その要請に応えるためにも、高校生は日本の今と将来をしっかりと見つめ、政治のあり方や社会のあり方について考えておく必要があります。今年夏の参院選が最初の選挙となる予定ですが、本校生徒を含め高校生の積極的な政治への関わりを期待します。

最後になりましたが、今後も教育活動を充実させ、同窓会員の皆様の期待に応えられる学校づくりを進めていくよう全力を尽くします。母校発展のため、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

ご支援ありがとうございます
ごさいます!



事務長(会計担当)
小原 徹

昨年四月から美須々ヶ丘高校の事務室に勤務しており、同窓会では会計事務を担当させていただいております。

事務室では、学校の運営や校内環境の維持管理・改善などに係る県予算の執行をしておりますが、限られた予算の中で厳しい運営を行っているのが実情です。

同窓会の会計の立場としては、総会で承認いただいた母校援助に係る予算の執行を担当しておりますが、県予算が厳しい中において、この母校発展へのご支援を大変ありがたく感じております。

一般会計の母校援助費(六頁「決算書」に掲載)では、学校の環境整備やクラブ振興などに毎年ご支援をいただいておりますが、皆様にその内容をお知らせする機会がありませんので、この場をお借りしまして最近ご支援いただいた主なものを下表のとおり報告させていただきます。

このほか、学校創立百周年を機に建設、寄贈していただきました美須々教育会館は、プロジェクトを使用する授業や自主学習、演劇部の練習などに、大変貴重な場として日々利用させていただいております。これらのご支援により、本校生徒

年度	内容
25	陸上部：物置設置 A E D(自動体外式除細動器)購入 映画「アンダンテ稲の旋律」上映
26	野球部：屋内練習場復旧 ソフトボール部：ピッチングマシン購入 弓道部：弓道場安土組積工事 演劇部：パソコン購入
27	テニス部：物置設置 バasketボール部：ショットクロック購入 吹奏楽部：創部50周年記念演奏会開催支援等 写真部：プリンタ購入
毎年	・美須々ヶ丘セミナー：講演会開催等 ・学校整備共同作業(校舎の壁塗り等)：作業台賃借等 ・双蝶祭：豚汁サービス

の学校生活はより充実したものでなっており、勉強やクラブ活動の成果にも繋がっているものと思えます。皆様のご支援に御礼申し上げます。県職員としての立場、本会計担当としての立場とそれぞれありますが、ご縁があつて本校に赴任しましたので、微力ではありますが、今後とも美須々ヶ丘高校の発展、また同窓会の発展のために職務を努めて参りたいと考えております。よろしくお願いたします。

あれから六年……



理事
須澤 稔
(昭和54卒)

昨年六月九日、同窓会三役会におきまして、今回一身上の都合により退任された高橋理事(昭和五四年卒)後任理事として承認を頂きまし。何分未熟者ですが宜しくお願い致します。

実は二〇〇九年本校創立百周年の際、同窓会役員を務めさせて頂きました。その後いろいろとありましたが、あれから六年の時を経て、このたび役員復帰となりました。

さらに、一昨年四月より次女が本校にお世話になっております。ご縁がありまして、現在二年生のPTA会長を務めさせて頂いております。微力ながら同窓会、PTAとお世話になった学校に何かしら恩返しできたかと思っております。

今回の紙面は折角の機会ですので会員の皆様に自己紹介をさせて頂きます。

生まれは昭和三六年一月、干支は丑年の五四歳です。住まいは松本市郊外「アルウィン」から徒歩一五分、りんご園や田んぼに囲まれた松本市今井に住んでおります。家族は公務員で保育士の妻(美須々ヶ丘高校在学時同級生)、美須々二年生の次女、母と四人で暮らしております。長女は東京在住学生、父は三年前に他界しました。仕事は中日新聞社専属広告代理店に勤務、主に中日新聞

信州版の広告紙面の取材営業を産業としております。

長野県松本美須々ヶ丘高等学校は昭和五四年に卒業しました。昨年度春本校に着任された工藤教頭先生は二年先輩でいらつしやいます。在学中は、男子ハンドボール部(第三期生)、フオークソングクラブに在籍、生徒会活動は三年間文化祭実行委員会に所属、双蝶祭実行委員長も経験しました。そんな高校生活は、ハンドボール部では生涯の友に出会い、文化祭では「井上陽水」を弾き語り、三年間ハンドと文化祭に主力を傾注した高校生活でした。今思えば、学業を疎かにして、自由奔放な青春時代を過ごしてきましたが、とても充実した高校生活でした。後悔はありません。

一昨年初めての授業参観の折り、四階教室からグラウンドを一望することができました。昔と変わらぬ教室や、眺望に感無量になりました。三八年ぶりの教室で、美須々ヶ丘での青春時代の記憶が蘇り、なつかしさで胸がいっぱいになりました。母校に又来校できる機会をあたえてくれた娘に感謝しております。

かけがえのない青春時代を大切に送ってほしいと切に願います。私も娘といっしょに、母校といっしょに「大人の青春時代」を楽しんでおります。

さて、来年度の同窓会総会、懇親会はいくつ五四年卒(五五歳になる年代)が主管、平成元年卒(四五歳になる年代)の皆様が副主管として開催致します。開催日は平成二八年六

月一八日(土)毎年六月第三土曜日開催、会場は長野県松本市、JR松本駅前・松本東急R E Iホテルに決定しております。是非とも大勢の会員の皆様の御出席をお待ち申し上げます。





吹奏楽部創部五十周年記念演奏会、 記念式典・祝賀会

平成二十七年十一月二十一日(土) 松本市音楽文化ホール(ザ・ハーモニーホール)メインホールにて、松本美須々ヶ丘高校吹奏楽部創部五十周年記念演奏会を開催しました。また、演奏会終了後、ホテルモントーニユ松本にて記念式典・祝賀会を開催しましたので、紙面をお借りしご報告させていただきます。

吹奏楽部は、一九六五年八月に、当時一学年に在籍していた七名により同好会として発足し、同年十一月に生徒総会にて承認され、クラブへと昇格しました。演奏会の初めに初代部長であり、現OB会長の大池悦二さんより「創部にあたり、一人でピラ配りをして同志を募った」「楽器も足りず、部員全員でアルバイトをして楽器を購入した」等、創部当時の貴重なお話をいただきました。

記念演奏会は、五百名以上のお客様にご来場いただき、盛大に開催する事が出来ました。OBバンドステージでは、上は昭和四十五年卒業の方から、下は今年九月に引退したばかりの三年生まで総勢七十二名が

参加し、過去顧問の高橋雅大先生、白木貴仁先生の指揮で、吹奏楽では馴染み深い曲を演奏しました。また、吹奏楽部OGで現在サクソフォン奏者として活躍されている岩渕みずきさんにソロを披露していただきました。

現役吹奏楽部ステージは、小さな子どもからお年寄りまで楽しめるような曲目・演出となっており、歌やダンス、バンド全体演出、アルトサクソスのソロなど、高校生の若さ溢れるステージとなりました。

合同ステージでは、一曲目に「松本美須々ヶ丘高校校歌」を現顧問の下島齊先生の指揮で演奏し、総勢百十名の迫力ある演奏と歌声がホールに響き渡りました。二曲目の「燃えよ美須々ヶ丘サウンド」は、平成七年に高橋雅大先生が作曲し、創部三十周年記念演奏会・第二十回定期演奏会以来、実に二十年ぶりの演奏となりました。演奏会の最後に、吹奏楽部伝統の曲である「宝島」を演奏し、五十周年記念演奏会の幕を閉じました。

演奏会後の記念式典・祝賀会は、多数の来賓の皆様と約八十名の吹奏楽部OBが参加し、祝杯をあげました。増田俊夫先生を始め、過去顧問の先生方にもご臨席いただき、思い出話に盛り上がりました。

最後になりましたが、この度の記念演奏会、式典・祝賀会に足を運んでいただいた皆様、開催にあたりご支援ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます、この度の報告とさせていただきます。



記念式典・祝賀会



総勢110名で「宝島」を演奏

《松本美須々ヶ丘高校吹奏楽部のあゆみ(抜粋)》

- 1965年 同好会として発足 同年秋クラブ昇格
(初代主顧問 水野文夫 先生)
- 1966年 双蝶祭にて第1回定期公演開催
- 1969年 第20回中高高等学校合同演奏会参加
- 1974年 全日本吹奏楽コンクール初出場
- 1975年 第1回吹奏楽フェスティバル参加
- 1976年 3月21日 第1回定期演奏会開催
- 1985年 第10回定期演奏会
- 1986年 中部日本吹奏楽コンクール初出場。本大会出場
- 1991年 長野県高等学校文化連盟設立総会及び記念行事にて演奏
- 1993年 第17回全国高等学校総合文化祭に長野県代表として出場
- 1995年 創部30周年記念演奏会、第20回定期演奏会
- 1997年 第45回全日本吹奏楽コンクール東海大会初出場
- 2003年 第15回全日本高等学校選抜吹奏楽大会初出場
全日本吹奏楽コンクール全国大会初出場

- 2004年 全日本吹奏楽コンクール全国大会出場
- 2005年 第17回全日本高等学校選抜吹奏楽大会出場
第30回定期演奏会 (A公演・B公演)
全日本高等学校総合文化祭出場
全日本吹奏楽コンクール全国大会出場
- 2006年 第18回全日本高等学校選抜吹奏楽大会出場
第5回西日本バンドフェスティバル出演
- 2010年 台湾訪問演奏会
- 2011年 復興支援活動を実施
- 2012年 Point Green Concert参加
- 2015年 9月20日 第40回定期演奏会
11月21日 創部50周年記念演奏会、記念式典・祝賀会

※創部50周年記念誌 (H28.2月発行予定) をご希望の方は、下記までご連絡ください
吹奏楽部OB事務局: misuzusuibu@yahoo.co.jp

松本市中 松本市高  松本美須々ヶ丘

野球部創部70年記念号

2015年10月発行

発行者責任者/松本美須々ヶ丘高校野球部OB会長 小林磨史
 勤務(ホテルニューステーション) Tel 0263-35-3850 Fax 0263-35-3851
 E-mail kobayashi@hotel-ns.co.jp 携帯 090-3143-4085

「野球部創部七十年記念号」(平成二十七年十月発行)より抜粋

野球部創部七十年の軌跡

三度目の甲子園出場をめざして!

今年(戦後七十年、母校野球部の創部七十年とも重なり、記念式典当日(平成二十七年六月二十七日開催)はスライドで昔懐かしい先輩方の活躍の様子を映写し、高校野球を通じて戦後の復興の歴史を振り返ることも叶いました。

今から二十年前の平成七年九月に発行された創部五十年記念誌『甲子園はるか』には、創部五か月にして見事甲子園出場の夢を叶えた先輩諸氏の武勇伝が、当時の社会背景とともに綴られています。五十年記念誌から母校野球部の歴史と、盛会であった式典当日の模様を紹介させていただきます、野球部創部七十年の報告とさせていただきます。



敗戦直後の食糧難、物資不足の中、昭和二十一年一月、全国中等学校野球大会が復活した。球児たちの甲子園への夢が繋がった瞬間である。

松本市内では、前年の昭和二十年暮れに松本商業、松本中学(現深志高)の野球部が復活、春には松本二中(現県ヶ丘高)、松本工業に野球部が創設された。



市中時代の校舍

わか松本市立中学(現美須々ヶ丘高)

は昭和二十一年春、クラス対抗の野球大会が契機となつて、同四月に有志(浅川明先輩・丸山茂夫先輩)が、当時野球に理解のあった田中校長に硬式野球部の創設をお願いし、快諾を得たと記されている。

野球部創設の苦労は大変なもので、ユニフォームは勿論、道具類もなく、部員が自前で調達し、練習は松本城の石ころだらけの前庭で開始したとある。



松本城前の広場

最初の練習試合は四月末の松本商業戦。ユニフォームは市内の片倉製糸チームから借り、胸のマークが見えないよう裏返して着用、ベルトは落下傘用のひもを代用したそう。

試合結果は、激突でなく「二蹴」であった。サインも作戦もなく、何と二対三十二で完敗。

この屈辱に一時野球部は解散の危機まで陥つたが、先生や級友に励まされ練習再開。翌五月半ばの第二戦目、松工戦では十八対六で初勝利を収める。五月終盤から市内五校(松中・松商・松高・松工・本校)によるリーグ戦が開催され、二度目の松商戦は、十二対二十で敗戦。但し、七回まで十対十の同点で自信をつかんだようだ。

六月初め、良き指導者による組織的な指導を仰ぐべく各方面にお願いしたところ、松商野球部OBの胡桃沢(西沢)氏を監督に迎えることができ、学

校の特別の計らいで校舎の一部を合宿所として使用。いよいよ本格的な猛練習に取り組むこととなり、父兄による寄付金集めも始まった。

七月二十五日からの戦後復活第一回全国中等学校野球大会(甲子園大会)に備えた練習試合では、大町・伊那・長野へ遠征、連戦連勝で更に自信をつけ、いよいよ長野県予選大会が開幕。

終戦から約一年、未だ食うに食なく、被服にも不自由した当時の観客席は、戦闘帽子や裸で観戦する者もあったが、何はなくても平和と自由を満喫し、唯一の娯楽でもあった中等野球に酔いしれた。

初戦の松工とは三対一で勝利。二回戦は長商と十六対八、準々決勝は長中(現長野高校)に六対四、準決勝は松本中とで十六対四、念願の決勝進出で信越大会への出場権を獲得。

決勝戦の相手は予想通り松本商業であったが、結果は八対三で敗戦。何と、八回本校の放棄試合?で松商が優勝。この試合が先輩たちの野球魂に火をつけた。

記念誌には「何という試合か、八回まで本校が八対三でリードしていたが、九回表松商の攻撃で三点を奪われ八対六、なお二死満塁。このとき相沢投手にボークの判定でトラブルが発生。応援団、観客もグラウンドへ雪崩れ込んで試合続行不能となり、遂に審判から試合中止が宣告された。」とある。熊谷郁男(旧姓相沢)先輩の手記では「九回の松商の攻撃は、八対六でなお二死満塁、一打逆転のピンチが続いた。相沢投手が投球動作に入ったとき、三塁側スタンドからファールボールがグラウンドに投げ返された。三塁の塁審はこのボールを早く片付けるようボールボーイに手を振って合図した。これを

タイムがかかったと勘違いした相沢は、投球動作を途中でやめ、主審は直ちにボークを宣告した。三塁走者は生還し一点差、なお二、三塁と逆転のピンチ、この判定に収まらない松本市中の応援団がグラウンドに雪崩れ込み、主審に抗議。松商応援団もこれに応酬し球場は大混乱。後に全国中等学校野球連盟から出た裁定は、松本市中の放棄試合で九対〇、松商の勝利というものであった。」と解説している。



相沢投手と藤田捕手

信越大会には、長野県から松商と本校が、新潟県は新潟中学と柏崎中学が出場。八月三日、松商が柏中に二十対三、本校が新中に十一対四で勝利。決勝は再び本校と松商との決戦となった。八月四日、長野県予選決勝ではボーク判定で中止となった因縁の対決とあって、両校の応援団や一般市民で県営球場は超満員、異様な雰囲気となった。試合は追いつ追われつものシーソーゲーム、結局十対七で本校、松本市立中に栄冠が輝いた。



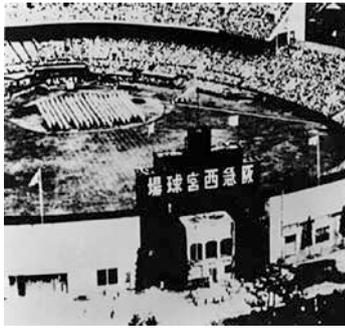
S21年信越大会優勝

勝った! 遂に勝った! 宿敵松本商

業を倒し、創部から五か月で夢の全国大会への道が開かれた。胡沢汎監督の指導、学校、生徒、後援会の支援、団結。選手は一戦毎に力をつけ、成り得た結果。よくぞここまでと感激あふれるのみ……。

戦前から通算二十八回、戦後復活第一回の全国大会は、阪急西宮球場で開催された。甲子園は米軍の占領下で使用できなかった。全国七百四十五校からの代表十九校が勝ち上がった。各校後援会が食糧調達に四苦八苦した大会でもあった。宿舎は大半の学校が関西学院の寮、持ち寄った食糧を共同で自炊した。

本校は二回戦から登場、相手は四国代表城東中学、結果は七対二で勝利、三回戦準々決勝に進出。三回戦の相手は東京高付中。残念無念。九回に逆転され、二対三で惜しくも敗戦。この仇は後輩にと念じ、涙、涙で西宮球場に別れを告げた。と悔しさいっぱいに綴られている。



阪急西宮球場

夏の全国大会準々決勝敗退の傷心を癒す間もなく、八月二十三日から松本市主催で近県中等学校招待野球大会が開催された。本校は一回戦で岐阜工に九対一、準決勝で都立一中に九対四で勝利し、決勝は同県の松商と五度目の対戦となった。結果は、十対八で本校が勝ち、信越代表校としての面目を保った。

保った。

十一月の第一回国民体育大会（京都府）には、夏の全国大会の実績が認められ長野県代表として参加。本校は夏の優勝校浪華商業と対戦し一対六。さすがに強かった。この試合を最後に昭和二十一年度の全試合を終了した。

栄えある全国大会出場メンバーは部長 柴韓治郎先生、監督 西沢清氏、マネージャー 丸山茂夫（五年）、同 中田武夫（五年）、投手 相沢資宏（五年）、捕手 藤田繁（五年）、一塁手 平野義一（五年）、二塁手 守田豊治（五年）、三塁手 相沢郁男（五年）、遊撃手 浅川明（五年）、左翼手 堀国男（五年）、中堅手 小原修（五年）、右翼手 平野幸男（三年）、補欠 清沢平（四年）、小原啓（四年）、野口健（四年）、小森光生（三年）

昭和二十二年・二十三年度の活躍も見逃せませんので少し触れることにします。

昭和二十二年年度決勝戦は松本市中（現深志）を延長十四回、三対〇で破り優勝した。全国大会出場を懸けた北信越大会決勝は、再度松本市中との戦いとなった。何と延長二十三回で地方大会新記録だったが、残念ながら松本市中に二対四で敗れた。この年は松本市中が栄えある全国大会に進んだ。翌二十三年、戦後三年目で学制改革があり、松本市中は市内の二中学と合併、松本市立高等学校となった。県大会では決勝戦で穂高農業高校に四対〇で勝利し県大会二連覇。信越大会決勝は穂高農業と再戦し四対五で敗れ、穂高農業が全国大会出場の栄誉を手にした。

本校二度目の全国大会出場は昭和二十四年度であった。この年の北信越大会県予選の決勝は、中信予選二試合と県大会三試合を全て完封勝利で制した大会屈指の好投手、手塚幸いる松本市高。そして、それに勝るとも劣らぬ

好投手、宮川幸いる長野北高との間で争われた。松本市高十四安打、一方の長野北高は三安打。結果は三対二で本校が勝利した。北信越大会決勝戦は、長野北高が初回に二点を先取、本校が二回と七回に一点ずつ返す好ゲーム。手塚と宮川の投手戦は、本校が八回に積極打法で二点挙げ決着、二度目の栄誉を手に入れた。両軍の美技の繰り返して稀に見る好試合であった。

松本市高は二十二年・二十三年と連続で県大会に優勝しながら、信越大会決勝で二十二年度は松本市中に、二十三年度は穂高農業に敗れた苦い経験を持つだけに、今回の勝利はひときわ喜び深いものとなった。

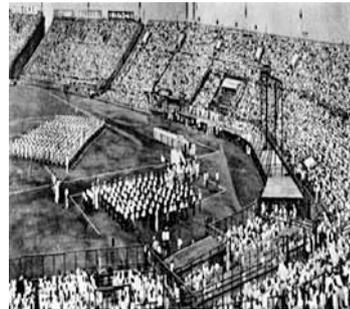
全国高校野球信越代表松本市高ナインは、八月十日朝七時十分松本駅発の列車で甲子園に向かった。駅ホームは校友、市、体協などの関係者で埋まり、野口主将が「学生らしく力いっぱい戦ってきます。」と応えた。



入場行進をする松本市高

甲子園の第一戦は不戦勝、四日目の第一試合で北陸代表の武生高と東九洲代表臼杵高の勝者と対戦することとなった。試合は予想通り優勝候補の臼杵高が勝利し、本校甲子園初戦の相手は決まった。勝目は六分と言われた本校と臼杵高の試合は、相手が七回に一点、本校は九回に小森の長打で追いつき延長戦に突入。十一回に臼杵高が二

三塁のチャンスをストックズ失敗で逃すと、十二回本校は小森が再度三塁打、伊藤のスクイズが前進した三塁手の頭上を越え決勝点が入って勝利。但し、本校の低位打線の不調が心配された。



超満員の甲子園球場

次の三回戦は準々決勝、相手は神奈川県代表の湘南高。甲子園は内外野とも超満員の観衆を集め、松本市高が先攻で始まった。六回に本校が一点先取も七回に同点とされる接戦。八回相手の無死一・二塁の攻撃を凌ぐが、九回裏一死後安打と盗塁で二進した走者を右前ヒットで返され万事休す。この年の全国大会決勝戦は岐阜高と湘南高で争われ、本校に勝利した湘南高が初出場初優勝「無欲の勝利」と話題になった。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
これ以降、残念ながらも母が母校は全国大会出場までの戦績は上げられずにあります。しかし、高校生活の殆どを野球と共に過ごした球友は、現在住所が把握できているだけでも四百五十五名おり、その会友には毎年会報を発送し、後輩たちの支援をお願いしています。私たち松本美須々ヶ丘高校野球部OB会員は、その前身の松本市中、松本市高時代の先輩が成し遂げた二度の全国大会出場の大偉業を心から誇りに思い、いつの日も三度目の奇蹟を念じて止みません。

今回の式典に昭和二十一年と二十四年の戦いを演じた大先輩をお迎えでき、お話を伺いできたことは感無量でありました。小森さんは今回お越しいただけませんでした。昭和二十五

年松本市高を卒業後、早稲田大学に入学し野球部で活躍の後、二十九年毎日オリオンズ入団。その後近鉄パuffers、続いて広島カープ、ヤクルトスワローズ、大洋ホエールズでコーチを歴任し、昭和五十九年にユニフォームを脱ぎますが、現役生活十二年、千試合出場、コーチで十七年、解説者で二年の計三十一年をプロ野球の世界で過ごしました。



野球部創部70年記念祝賀会

（野球部OB会長 小林磨史）

平成27年度 長野県松本美須々ヶ丘高等学校同窓会定期総会

《会議次第》

- 1 開会のことば
- 2 同窓会長あいさつ
- 3 学校長あいさつ
- 4 来賓あいさつ
- 5 議長選出・議長就任あいさつ
- 6 議事録署名人の委嘱
- 7 議 事
 - 第 1 号議案 平成26年度事業報告について
 - 第 2 号議案 平成26年度決算報告及び会計監査報告について
 - 第 3 号議案 平成27年度事業計画（案）について
 - 第 4 号議案 平成27年度予算（案）について
- 8 議長退任あいさつ
- 9 報告事項
 - (1) 学校の近況について
 - (2) 創立100周年記念誌の販売について
 - (3) その他
- 10 閉会のことば



提出議案につきましては、
すべて原案のとおり承認されました。

今年度の定期総会・コンサート・懇親会に出席された方は84名でした。

平成27年度の当番幹事のS53年卒、S63年卒のみなさまありがとうございました。
来年度（平成28年度）の当番幹事のS54年卒、H元年卒のみなさま、よろしくお願ひします。

平成二十七年 同窓会役員名簿

役 職	氏 名	卒業年
顧問	銭坂 明 尚	昭和 22
"	井口 善 高	昭和 30
"	福島 昭 子	昭和 26
顧問(校長)	寺 沢 宏 芳	
参 与	中 川 博 司	昭和 52
"	豊 裕 一	平成 元
会 長	中 村 一 郎	昭和 37
副会長(会長代行)	小 林 磨 史	昭和 48
副 会 長	百 瀬 富 貴 子	昭和 45
"	白 井 秀 代	昭和 47
副会長(事務局長)	瀨 川 久 幸	昭和 55
副 会 長	滝 澤 修	平成 2
副会長(教頭)	工 藤 哲 夫	昭和 52
常 任 理 事	大 林 好 矩	昭和 28
"	山 田 悦 生	昭和 42
監 事	鳥 羽 紀 子	昭和 38
"	小 野 伸 二	昭和 61
会 計	原 元 士	昭和 50
会計(事務長)	小 原 徹	
理 事	三 澤 博	昭和 39
"	三 輪 尚 弘	昭和 41
"	伊 藤 篤 實	昭和 43
"	上 條 信 太 郎	昭和 44
"	川 崎 亨	昭和 45
"	大 沢 千 尋	昭和 46
"	中 村 俊 春	昭和 46
"	松 本 武 子	昭和 47
"	須 堤 典 義	昭和 52
"	須 澤 稔	昭和 54
"	木 下 尚 子	昭和 55
"	中 村 努	昭和 56
"	鳥 羽 洋 一	昭和 57
"	田 村 義 夫	平成 3
事 務 局	住 田 慶 子	昭和 37
"	鳥 羽 美 根 子	昭和 37
"	横 田 麗 子	昭和 43
"	逢 澤 幸 子	昭和 45
"	滝 沢 愛 子	
学 校 職 員	高 橋 一 郎	昭和 58
"	祖父 江 信 一	昭和 59
"	酒 井 舞	平成 13
"	山 岡 久 俊	

平成26年度 松本美須々ヶ丘高等学校同窓会 一般会計決算書

収入総額 10,420,916 円
支出総額 6,822,910 円
差引残額 3,598,006 円

1 収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	収入済額	差 額	摘 要
1 会 費	6,725,000	6,641,236	△ 83,764	
1 新入生会費	1,605,000	1,605,000	0	新入生 321人×5,000円
2 卒業生会費	3,120,000	3,110,000	△ 10,000	卒業生 311人×10,000円
3 会員会費	2,000,000	1,926,236	△ 73,764	会員 1,003名
2 諸収入	25,895	20,575	△ 5,320	
1 諸収入	895	575	△ 320	預金利息
2 百周年記念誌代	25,000	20,000	△ 5,000	販売 4冊
3 繰越金	3,759,105	3,759,105	0	前年度からの繰越金
合 計	10,510,000	10,420,916	△ 89,084	

2 支出の部

単位：円

科 目	予 算 額	支出済額	予算残額	摘 要
1 活動費	8,754,000	5,322,910	3,431,090	
1 事務費	2,149,000	661,632	1,487,368	事務局職員謝金・光熱水費、ホームページ作成料、電話代、インターネット利用料、郵送料等
2 会議費	255,000	34,327	220,673	役員会経費、同期会(S52)補助
3 総会費	660,000	566,031	93,969	総会経費、資料・案内印刷、郵送料、アトラクション経費等
4 母校援助費	2,300,000	1,397,552	902,448	美須々ヶ丘セミナー補助、野球部・ソフトボール部・弓道部・演劇部支援費、新聞広告掲載料、双蝶祭行事費等
5 同窓会報発行費	3,000,000	2,325,688	674,312	会報印刷発送経費
6 卒業記念費	240,000	220,500	19,500	卒業証書ホルダー購入費
7 交際費	150,000	117,180	32,820	学校歓迎迎会への出席役員補助等
2 積立金	1,500,000	1,500,000	0	特別会計へ積立
3 予備費	256,000	0	256,000	
合 計	10,510,000	6,822,910	3,687,090	

特別会計(積立金) 残高報告	25年度末残	26年度増減		残 額	摘 要
		増	減		
	20,870,287	4,165	1,500,000	22,374,452	預金利息 一般会計から

2015年6月20日(土) 平成27年度 同窓会定期総会 アトラクションコンサート

マリンバ&パーカッション 『CLOVER』

演奏者：田中綾、清水優、平野有希子



田 中 綾 (たなかあや)

長野県安曇野市出身。本校平成7年度卒業。洗足学園音楽大学卒業。高校在学中は吹奏楽部に所属する。現代音楽演奏コンクール「競奏V」入選。宮崎駿監督のジブリ映画作品のレコーディングに参加。『冬のソナタ』、『チャングムの誓い』、などの人気韓国ドラマOSTを歌う歌手のサポートメンバーとして全国ツアー、レコーディングに参加。アニメ劇場版「魔法少女まどか☆マギカ」オーケストラメンバーとして参加。

清 水 優 (しみずまさる)

静岡県浜松市出身。洗足学園音楽大学卒業。世界各地の打楽器に精通し、それらを駆使しクラシック、ジャズ、ミュージカル、ポップスなどジャンルを問わず演奏活動を展開中。

平 野 有希子 (ひらのゆきこ)

神奈川県藤沢市出身。洗足学園音楽大学卒業、同大学音楽専攻科修了。2012年カメラータ・トウキョウよりマリンバカルテットCD「FOUR MARIMBAS」をリリース。



9月17日(土)

学校整備共同作業

本校創立百周年を機に毎年、生徒・同窓会・PTA・学校職員の4者が共同で校内整備作業を実施しています。手分けして2棟廊下壁のペンキ塗り、北グランド整備、プランターカバー作成をしました。秋空の下、力を合わせ校内の美化に汗を流しました。



廊下壁ペンキ塗り



会長挨拶



H28全国植樹祭ながので設置する
プランターカバーを作成



北グランド整備



平成3年卒業 同級会 平成3年卒業 田村 義夫(3年5組)

恩師：中村晴夫先生を囲んで、四半世紀ぶりの同級会。先生が我々を担任していた歳を遥かに超え、「それなり」の大人になりました。

話しは尽きず、翌朝まで歌い明かしました♪

25年を取り戻すかのように。

同じ時代に、同じ高校、同じクラスで偶然集まった45名との3年間。

一生の仲間であり、宝物です。

平成26年度・27年度 クラブ活動の主な大会報告

運動クラブ

弓道 剣道 サッカー 水泳 野球 陸上 ソフトテニス 卓球
 ソフトボール バドミントン テニス バasketボール
 ハンドボール バレーボール フットサル

26年度

長野県高等学校総合体育大会

陸上	円盤投	瀧本 4位
	ハンマー投	瀧本 1位
	砲丸投げ	瀧本 7位
	400mH	忠地 2位
	500M競歩	赤羽 7位
弓道	男子団体	3位
	女子団体	個人 平塚
サッカー		ベスト16
ソフトテニス		男子
卓球		男子 女子
バレーボール		男子 (ベスト16)
バスケットボール		男子 女子 (ベスト16)
バドミントン		女子
ハンドボール		男子 女子
水泳		50m、100m、200m自由形 200m個人メドレー 400mメドレーリレー 400mリレー
野球		全国高等学校野球選手権

北信越高等学校体育大会

陸上	ハンマー投	瀧本 3位
	400mH	忠地
弓道		男子団体 女子団体

東海陸上選手権 (岐阜)

陸上	ハンマー投	瀧本 3位
----	-------	-------

全国高等学校総合体育大会 (甲府)

陸上	ハンマー投	瀧本
----	-------	----

東日本高校弓道大会

弓道		男子団体
----	--	------

27年度(経過)

長野県高等学校総合体育大会

弓道		男子団体 (3位)
	女子団体	男女個人
サッカー		3回戦
水泳		男子 50m自 100m自 100mバタ 200m個人メドレー 女子 50m自 100m背 100mバタ 200mバタ 200m個人メドレー 400mリレー
ソフトテニス		男子
ソフトボール		
卓球		男子 (2回戦) 女子 (2回戦) 女子個人w・s
なぎなた		演技 2位
バスケットボール		女子 (2回戦)
バレーボール		男子 ベスト8 女子 (2回戦)
ハンドボール		男子 (2回戦) 女子 (2回戦)
野球		全国高校野球選手権
陸上		男子 1500m 5000m 女子 走高跳

北信越高等学校体育大会

弓道		男子団体 準優勝 (新潟市)
水泳		200mバタ (敦賀市)
なぎなた		演技 (南砺市)

全国高等学校総合体育大会

なぎなた		演技 (大阪市)
------	--	----------

全国高校サッカー選手権県大会

全日本バレーボール高校選手権県大会

長野県高等学校新人体育大会

水泳		(男女)
ソフトテニス		(男女)
卓球		(男女)
剣道		(女子)
弓道		(男女)
陸上		(女子)
バスケットボール		(男女)
ハンドボール		(男子)

学芸クラブ

FMC 演劇 合唱 写真 吹奏楽 ダンス 美術 書道 放送 情報処理
 生物 被服 漫画 華道 茶道 映画研究

26年度

F M C		県高等学校軽音楽系クラブ合同演奏会
演劇		県高等学校演劇合同発表会
合唱		NHK合唱コンクール県大会銅賞
写真		県高校写真展
書道		県書道展 (特選1 金2 銀1 銅6 入選11) 全日本高校・大学生書道展 (準優秀1)
吹奏楽		県大会 銀賞 アンサンブルコンテスト県大会金賞 (打楽器)
ダンス		ダンスフェスティバル 3位:22校参加
美術		県高等学校美術展出演
放送		第61回NHK杯全国高校放送コンテスト ・県大会 ラジオドラマ部門 最優秀賞 ラジオドキュメント 優秀賞+NHK長野賞 ・全国大会 ラジオドキュメント部門 SBC高校生交通安全CMコンテスト ラジオCM部門 グランプリ

27年度(経過)

F M C		県高等学校軽音楽系クラブ合同発表会県大会
演劇		関東演劇サマーフェスティバル参加 (足立区シアター1010) 県高等学校演劇合同発表会
合唱		NHK合唱コンクール県大会 銀賞 東京国際声楽コンクール高校生アンサンブル部門 甲信越地区大会 優秀賞 " 東日本 准本選 入選 " 本選 奨励賞
写真		県高校写真展
書道		県書道展 (特選1 金1 銀5 銅7) 高野山競書大会 (協会賞1 推薦1 特選3 准特選 金6 銀6 銅6)
吹奏楽		吹奏楽コンクール県大会 銀賞
ダンス		県高等学校ダンスフェスティバル
美術		県高等学校美術展出演
放送		第62回NHK杯全国高校放送コンテスト 県大会 ラジオドキュメント部門 全国大会 ラジオドキュメント部門

平成二十七年 度 美須々ヶ丘セミナー 「高校生の自治を考える」

本校では同窓会・PTAのご支援のもと美須々ヶ丘セミナーと称し、生徒の学力向上・職業観や進路意識の醸成・会員の教養向上を目的に各種行事を行っております。そのひとつとして平成二十七年十一月二十七日にキッセイ文化ホール大ホールにて講演会及びパネルディスカッションを行いました。

テーマは「高校生の自治を考える」ということで、戦後七十年の節目及び選挙権年齢が十八歳以上になるなど政治・社会が変動する中、高校生の自立・自治について考える機会としました。

第一部 講演会

講師：齊藤 金司氏（松本市教育委員）
演題：「教科書から時代を考える」
〜ひとりの人間としての自立にむけて〜

〈はじめに〉

今年を国を挙げて安保法案などについて議論が沸騰しました。

特に、憲法とは何だろうと考えた時、我が国の安全安心のため一番大事なこととして守られなければならない「大儀」たり得る、と考えました。

「戦後七十年」という今年は、戦後にあって一番大きな曲がり角だった年であり、来年は十八歳から選挙権が行使され

ます。特に若者には時代を判断する力・時代を切り開く力をつけて欲しいと強く思います。そのようなことに関わってのヒントとなりうることを「国語の教科書」を題材にしてお話しします。



① 筑摩書房と国語の教科書

長野県には岩波書店、筑摩書房などを創業した多くの出版人がいる。筑摩書房の白井吉見は、柳田國男からの教示を得て「かつて口を揃えてただ一つの合言葉だけを言い続けていたのは、これ以外の考え方言い方を修練する機会を与えられなかったからだ」と国語教育の重要さに気付いた。一九五九年、次代を担う若者の知性と教養を高めるのに相応しい力を養うため、良質の文章を「教材」という枠にとどまることなく提供したい、との思いで教科書を作った。

② 教科書の語る戦後

藤村詩集の序（一部）：「生命は力なり。力は声なり。声は言葉なり。新しき言葉

はずなはち新しき生涯なり。」
金子光晴詩集：「湖畔吟」「富士」の詩を例に反戦・抵抗の姿勢を貫こうとする生き方を読み取る。

③ 大江健三郎の場合：「ヒロシマ・ノート」

威厳・屈辱・恥という言葉は、自分のモラルの世界のもっとも基本的な用語である。④ シーシュポスの神話(カミュ)：人はいずれ死んで全て水泡に帰すことを承知しているが、それでも生き続ける不条理。

〈おわりに〉

世界には過酷な状況の中で生きざるを得ない子どもたちが大勢いる。例えばあなたがラーメンを食べているとき、その子たちのことを考え思いを寄せる「想像力」を働かせることによって、人が人らしい繋がりがつくっていくきっかけとなるだろう。視野を世界や歴史に広げ、想像力を働かせ何が出来るか考え行動することで、あなたの世界も広がっていくのだろう。



第二部 パネルディスカッション

DVD 「自由の約束二〇一五」

(美須々ヶ丘高校憲法制定の記録) 視聴

パネラー (敬称略)

・同窓生

小林 磨史(進行・同窓会副会長 S 48 卒)

祖父江 信一(本校教諭 S 59 卒)

金箱 彰・久保田 出

(憲法制定当時の生徒会正・副会長 H 9 卒)

・在校生 生徒会役員

・講師 齊藤 金司

美須々ヶ丘高校憲法制定当時に生徒会の役員として活躍した同窓生を中心に、現役生徒会役員を交えてパネルディスカッションが行われ、憲法制定当時の生徒会役員の方々の苦労話に現役生も真剣に聞き入っていました。

最後に、「憲法制定の背景を理解し、培われてきた美須々の良さをこれからの活動に活かし、新たな歴史を作って欲しい。」と先輩の方々からのお話がありました。

シリーズ 美須々のこころ⑤

松本美須々ヶ丘高校一九九〇年代のとり組み

—松本美須々ヶ丘高校憲法、新しい入学式・卒業式—

松本美須々ヶ丘高校100年の歩みを綴った記念誌『美須々のこころ』の中から次代へ受け継いでいきたい美須々精神や学校の歴史など、特筆すべき記事をシリーズで紹介します。

「五〇」にこだわって

「戦後五〇年、憲法公布五〇年」、そして「文化祭五〇回」と三年連続で「五〇」にこだわるテーマ設定に生徒たちは、継続しつらい文化祭の実践を三年という時間で継続し進化させることになる。「文化祭五〇回」はともあれ「戦後五〇年」「憲法五〇年」が学校生活への起死回生へのきつかけとなるテーマとしては、あまりに重い。

「真の自由の意味がなかなか理解されない。定着しないと嘆く現実はあるにしても、とにかくわれわれは日常の平和の中にあつて、学校生活を楽しんでいく。それはあの苦しい戦争、多くの犠牲を経てもたらされたもの。そしてその平和や権利が守られているのは戦後制定、公布された憲法の恩恵である。その上にたつて文化祭が五〇回続けられてきた。」

このことに肌感覚で気づき生徒たちに提供すること、それを学校生活の基盤とできないか、と考えた教師たちがいた。全く「普通」な教育観であるが、今までになかった新鮮な発想でもあつた。以下、平成七（一九九五）年から始まった『五〇』にこだわる文化祭から「美須々ヶ丘憲法」に至る取り組みである。

松本美須々ヶ丘高校憲法

三権分立、基本的人権の尊重、平和主義等々、小学校から大学まで学習した日本国憲法の特徴は「言葉」や「知識」であり、輪郭と意味を持って残らない。知っただけでも「わかる」領域まで深まらなかった。教職員もまた、教職教養の必修科目となつている「憲法」について学ぶ。ところが、憲法は、なぜ、だれのために、どのように作られるのか、その決定のシステムや全体像が、私たち一般市民の日常生活から想像できる範囲としてとらえ

られなかった。途切れてしまった憲法と私たちの日常生活との回路は、多くの時間を費やしているにもかかわらず一般市民は勿論、教職員にもその本質が染みていなかった。そしてそれは、多くの子供たちの今に当ってはまる。

憲法公布五〇年の年、生徒会による憲法の学習会を行う。生徒会顧問の教諭大西浩は、生徒会の取り組みを画策していた。その思いを、生徒会指導部や文化祭の企画を協働で作りに上げていく放送部顧問にも相談していた。しかし、

「憲法をつくる実践をすればいい」放送部顧問の林直哉が提案した。「つくろ……？」大西は訝しげな顔をしたが、勿論、美須々ヶ丘高校の憲法を作る実践である。

世界に類を見ない「平和憲法」。私たちはそれを受け継ぐこと、その憲法について学ぶことは大切にしてきた。しかし、その営みは憲法の本質を私たちに伝える方法論として適確だったのか。憲法草案が作られるほんの「パーセント」でもない、その過程を追体験することが「憲法とは何か」という気づきを生み出すはずであり、その気づきは、憲法を自分の日常生活に引き戻す仕掛けとなり新しい回路となる。そうなったときに「染み入るような憲法への学び」が生まれるはずである。

生徒会役員選挙が終わる、新しい生徒会が動き出す冬の日のことだった。教諭大西は、九六年度の生徒会のメンバーに「美須々ヶ丘高校の憲法作り」についてそれとなく話題にした。「憲法なんて固い話題を文化祭に……」生徒は猛反対するかと思えば、それは取り越し苦労だった。

後述するが、平成七（一九九五）年からの三年間は「戦後」「憲法」「双蝶祭」のキーワードと「五〇」という数字にこ

だわった文化祭の実践を展開する。いずれも高校生が正面から取り組むには大きすぎるテーマだった。平成八（一九九六）年「学校の憲法をつくる取り組み」も例外ではない。しかし、生徒会のメンバーとの打ち合わせでは、「日本国憲法」の学習ではなく、「みんなで自分の学校の憲法を作ってみたらどうなるか」と、視点を「私たち」の側に引き寄せたことが功を奏したようだ。生徒会の本部役員等をしたミーティングは熱を帯びていった。企画はほどなくスタートした。

しかし、作ることを前提にはじまった実践は手探りだ。手本とするような実践が見あたらず、一から積み上げなければならなかった。しかし、悲観的にはならず「あまり気負わず、楽しく」と決まっていた。担当は、当時の副会長で憲法作りの責任者となる大蔵が引き受けたが、全校に実施した最初のアンケートは大失敗だった。そのことを大蔵は

「校則も制服もない学校に、自分たちが憲法を作る。『大変そう、だけど面白そう』私は、直ぐにこの係になることを決めました。全校にアンケートを実施し、なぜ憲法なのかの理由を生徒会役員が説明し、LHRの話し合いを通じて『松本美須々ヶ丘高校憲法』の草稿を作る作業がはじまりました。ところが、こうして全校から集まった条文は、『上下履きの区別を付けよう』『掃除をさぼらないようにしよう』というような内容の条文ばかりだったのです。」

「みんなで学校の憲法を作ろう」といったものの、顧問の大西ならびに担当生徒も、単純に全校生徒に条文案のアンケートを行い、それを成文すれば何とか形になると考えていた。しかしそれはまじめと裏切られる。

美須々ヶ丘高校のシンボルともいえる制服も校則もない「自由」な校風。そんな高校で生活する生徒が「学校の憲法」として最初にあげたのは、自分を縛る「校則」と変わらなかった。この点に重要な意味がある。

中学・高校で、日本国憲法の特徴は「行政（国）を縛る点である」と学ぶはずだ。にもかかわらずこの時、顧問を含めて誰ひとり「学校の憲法であれば生徒の自由を保障するために学校の運営側を縛るべきだ」という視点を持ってなかった。ここに、読み解くことだけに専念してきた憲法学習の限界が見えてくる。

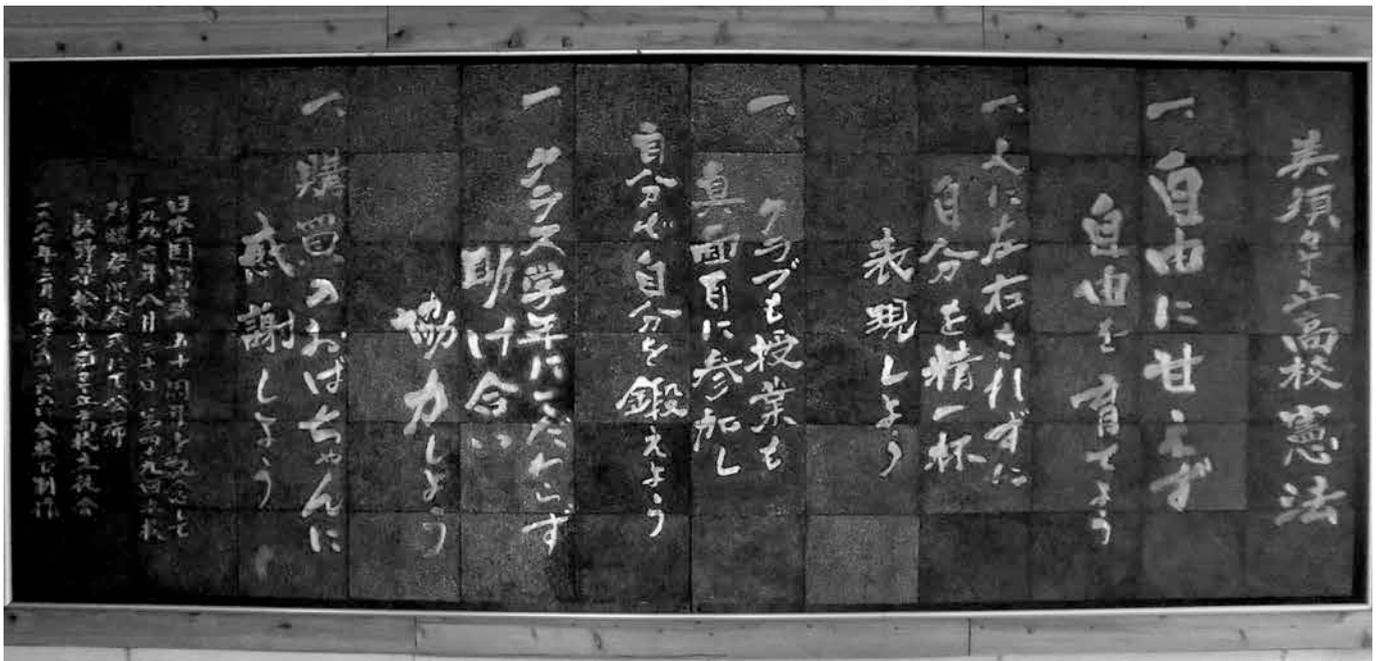
結局、憲法と一般の法律とは何が違うのか、いったい何を「学校の憲法」に盛り込むことが必要なのか、非常にプリミティブだが、真剣な話し合いが始まった。この試行錯誤の繰り返しに大きな気づきと学びの可能性が隠れていた。

この討議の末、二度目のアンケートを実施するにあたって、次の二つのルールが決まった。

教職員、保護者を含めて学校に関係する全ての立場の人を主語にすること。否定形は使わず「……しよう」という表現を使うこと。

こうして、改めて全校生徒から二〇〇〇行の条文を集め、その条文を分類していった。多かつた表現を骨にして、くつつけたり削ったりしながら五条の憲法にまとめあげた。生徒会の担当が「毎日、条文が夢にまで出てくる」と嘆いた夏休みが終わる、生徒会の役員会で、これでいいと納得した形になったのは、この憲法をお披露目する八月末、文化祭の三日前だった。

責任者の大蔵は、「最初の自由は『何をしてもいいという自由』で、後の自由は『何がができる



自由』です。私たちがこだわってきた『自由』を二種類に解釈することで条文に松本美須々ヶ丘高校らしさをこめられたと思う。憲法というのは『守るものではなく、目指すもの』ではないかと強く感じようになった。」と振り返った。

松本美須々ヶ丘高校憲法

- 第一条 自由に甘んず、自由を育てよう。
- 第二条 人に左右されずに「自分」を精一杯表現しよう。
- 第三条 クラブも授業も真面目に参加し、自分で自分を鍛えよう。
- 第四条 クラス、学年にこだわらず、助け合い協力しよう。
- 第五条 購買のおばちゃんに感謝しよう。
平成八年（一九九六）八月三〇日制定

第一条に盛り込まれた二つの「自由」に対するこだわりと解釈に、この憲法づくりの学びの到達点がある。生徒会の責任者大蔵の「守るものではなく目指すもの」という気づきは、憲法の本質を射抜いた言葉ではないが、憲法を持つ大切な一面を表現している。実際に作った経験を基盤にしなければ得られない実感である。

そして何より第五条に美須々らしさがある。購買を担当する三好さんは、おそらく最も長く美須々々を見つめてきた一人である。購買は、本校にとって単なる「購買」ではない。生徒の悩みを聞き、ある意味良きカウンセラーとして三好さんは毎日購買に立っていた。そのことを何より生徒たちは感じていたからこそ、学校の憲法の最後を飾る条文とした。

「第五条 購買のおばちゃんに感謝しよう。」
誰が何と言っても、この一条で美須々ヶ丘高校憲法は美須々々という空間にとけ

込んでいった。

この憲法は、条文化成の過程を含め文化祭の開祭式で公布され、当然そのステージには三好さんが招待されみんな大きな拍手を受けた。

そして、この年度の生徒会は終わり、新生徒会に憲法制定の想いを含めて受け継がれた。新生徒会は、卒業式の企画として全校で銅板レリーフにこの憲法を刻み、卒業式の引き継ぎの場で卒業生に贈った。そしてこの作品は、生徒昇降口の購買の横に飾られた。一〇年後の現在でもSNSの一つである、ミクシイの松本美須々ヶ丘高校コミュニティを象徴する写真にも使われている。

憲法は、行政（国）を制限し、国とそこに生きる国民の生活を方向づける。それは、憲法という法体系が発展し辿り着いた一つの到達点である。「憲法とは『日本国憲法の特徴とは』という視点でこの到達点を扱う憲法学習には重要な意味がある。しかし、この学習は、憲法（法律）学習の一つの切り口に過ぎない。もっと根つこの部分で、憲法や広い意味で法律と向き合う視点が必要であると考えていた。それが「憲法づくり」という名前を使った。法体系の卵を学ぶ取り組みとなった。その後、この実践は県内の高校に影響を与え、学校の憲法や憲章をつくる新たな実践を生み出した。

自分たちのコミュニティの目標や、ルールを自分たちで決定すること、この企画の過程と決定のプロセスにこそ、憲法を含めた法というシステムの「智」がある。人は、自分で決定する行為においてのみ主体となりうる。そして、どんな些細なことでも決定したことを大切に思う。国の憲法に替えて、コミュニティの憲法を考えながら起草に関わることで、

憲法の制定を疑似体験する。このような営みを実感として捉えようと試みたのが「美須々ヶ丘高校憲法づくり」の重要な意味だった。

継承していくことの大切さ

憲法ができると、入学式等の行事の度にこの憲法を例に取る講話が多くなった。憲法ができて五年間は、入学式には必ず、生徒会がこの憲法の成り立ちと過程を含めて新入生に伝える機会が作られた。制定した生徒と継承する生徒、それぞれの年に、五条の中から焦点化した条文にスポットを当て、新入生に「美須々々のこころ」を伝えていった。

九八年度の入学式に、当時の学校長野口直巳は、美須々ヶ丘高校の憲法第五条を取り上げ、

「『購買のおばちゃんに感謝しよう』とは、三好さんを象徴として、君たちが関わった全ての人に対して『感謝』することの重要性を説いた条文である。第一条が美須々々のこころを象徴しているとしたら、第五条は君たちが社会に生きていくための最も大切な精神を語っている」と述べた。起草した生徒達はきつとそんなに深い意味をここに込めなかったであろう。この言葉を聞いたときに、作られた条文は、後の人達によって改めて解釈され、読まれていくものであることを痛感した。日本国憲法もこうして新たな意味を条文から引き出されながら解釈されてきたのであろう。

いずれにしても、こうして美須々ヶ丘高校憲法は、美須々々のこころを言葉として表現した象徴的な作品として現在に至っている。美須々々のこころが美須々ヶ丘高校にとって空気となっているのと同様に、憲法もまた、美須々々の生活に静かに寄り添っている。

進学合格状況 (平成26年度末 延べ人数 浪人含む)

【国公立大学】 11 名							
信州大学	6	愛知県立芸術大学	1	島根県立大学	1	高崎経済大学	1
長野県看護大学	2						
【私立大学】 275 名 (一部抜粋)							
愛知大学	2	京都橘大学	3	拓殖大学	2	長野大学	6
愛知学院大学	6	杏林大学	4	玉川大学	3	長野保健医療大学	5
青山学院大学	1	近畿大学	2	中京大学	4	名古屋学院大学	4
亜細亜大学	2	健康科学大学	2	中部大学	2	南山大学	1
大妻女子大学	1	駒澤大学	5	帝京大学	1	日本大学	4
神奈川大学	15	佐久大学	3	東海大学	11	文教大学	4
神奈川工科大学	1	順天堂大学	1	東京経済大学	3	法政大学	1
関西外国語大学	2	鈴鹿医療科学大学	2	東京電機大学	4	松本大学	20
関東学院大学	3	諏訪東京理科大学	7	東京農業大学	2	明治学院大学	1
北里大学	1	清泉女学院大学	4	東京理科大学	1	立教大学	2
岐阜医療科学大学	2	専修大学	8	東洋大学	14	立命館大学	1
京都産業大学	1	大東文化大学	7	獨協大学	4	龍谷大学	4
【公立短期大学】 8 名							
長野県短大	5	大月短大	2	三重短大	1		
【私立短期大学】 38 名							
松本短大	16	松本大学松商短大部	8	昭和音楽大学短大部	2	清泉女学院短大	3
上田女子短大	3	大妻女子大学短大部	1	飯田女子短大	1	信州豊南短大	2
立教女学院短大	1						
【専門各種学校】 73 名							
看護医療系	31	その他分野	42				



本校創立100周年記念誌
(校歌CD付)
を好評発売中
1冊 5,000円
ご購入希望の方は事務局まで
ご連絡ください。

**美須々教育会館(同窓会館)を
ご利用ください。**

(同窓会の前に見学して、懇親会へ)
ご利用希望の方はご連絡ください。
学校 TEL 0263 (33) 3690

事務局は毎週火曜日の10時から15時まで
開館しています。

事務局TEL & FAX 0263 (33) 2560

事務局は毎週火曜日の10時から15時まで開館しています。

編集後記

第十一号は、掲載記事が多く増頁となり、年を越しての発行となりましたが、読み応えのある会報になったことと思います。

▼今年度は、一名の理事交代が承認されました。須澤さんの自己紹介によると創立百周年事業で活躍されたとのこと。「活発な同窓会」に向けてパワーアップすることを期待します。▼定期総会は八十余名の会員が出席。アトラクションは二十五年度にも出演した「CLOVER」による迫力のある演奏を楽しみ、続く懇親会も大いに盛り上がりしました。▼「野球部創部七十年記念号」では、物資不足の戦後にも拘らず「野球ができる」平和な時代の到来を喜び、勝利を目指した白熱の試合の臨場感、全国大会出場の快挙の歴史を知りました。

▼「吹奏楽部創部五十年」記念コンサートはOBバンド、現役バンドの各演奏、そしてフィナーレの合同演奏「宝島」…と大迫力で、息の合った素晴らしい舞台でした。▼生徒昇降口に掲示されている「美須々ヶ丘高校憲法」は、二十年前に作られたものです。日本国憲法公布五十周年の年に、美須々生として目指すべきものを創ろう、と生徒会が全校に呼びかけました。「憲法とは国家(美須々)が目指すべき理想」であることを学び、全校生徒のアンケート協力を得て取捨選択を繰り返して、五つの条文に集約されていきました。▼今号は美須々の部活・生徒会の歴史を「確認し継承する」特集となりました。

(事務局)

スタッフ募集

同窓会では役員として運営をお手伝いしていただけるスタッフを募集しています。
ご協力いただける方は、下記のメールアドレスよりご連絡をお待ちしております。
詳細は同窓会ホームページをご覧ください。

jimu@misuzu-dosokai.jp